

●けんちくつれづれ草 第183回  
**畳の必然性**

●事業案内

京彩まちあるき+デジタルマップ整備へ京都市左京区一乗寺V

令和3年度既存住宅状況調査技術者講習

建築家セミナー2022 永山祐子講演会

令和3年度監理技術者講習

●新年挨拶 会長・京都府知事・京都市長・支部長・青年部長・女性部長

●特集 **歴史的街区に備わる伝統的緑地による防火性能の評価**

●きょうと・人・まち・であいもん 東海道でつながるまちづくり

●支部だより サンガスタジウム by KYOCERA

●うちの本棚・今月の一冊 『珈琲の表現』

●お知らせ 令和3年度専攻建築士制度登録申請の受付開始

●表紙のことば 『教王護国寺 大師堂』

# 京都 だより

Kyoto Dayori



# つれづれ草

和の住宅に畳は必須なんだろうか？そんなことを考えて、畳のことを調べました。手持ちの書籍を調べるだけの、にわか勉強であることはご容赦を。

畳の起源については、2種類の説がありました。「皮や布、むしろなど薄い敷物のことで、不用のときはたたんで持ち運べるものだった。」※1「奈良時代に『板敷』といわれていたように板を敷きつめて、その上に座るときは草で編んだ座具が用いられた。平常はたたんでおくのでタタミといわれ、これが『畳』の起源だとされている。」※2など、畳とは薄い敷物のことでたたむことから「タタミ」というのだという説※3。そして、「畳」は敷物全般を指し、その中でも特に幾重にもたたみ重ねたもの※4、「薄い敷物状の素材（菅、獣皮、布など）」を幾枚か重ねて刺してつくった敷物のことで、「重ねる」「厚い」の意味がある「畳」が当てられたのである。※5「布や皮、あるいは筵のような薄い物を何枚か重ねて縫い合わせ、それを敷物にした物を畳と呼んでいたようである。」※6にあるように、薄い物を重ねたものが「畳」であるという説。いずれにしても、土間と板敷の床からなる日本の住まいの床に、状況に応じて敷かれる「しつらい」のための調度品であり、座具であり、寝具であった、ということのようです。そして、使う人の身分によって、かなり厳格にその仕様や用法が決まっていたそうです。・・・しかしそれなら、やはり畳は必須ではなく、板敷の間だって和室じゃないか。しかし、ご存じの通り、中世になると書

院造の発展とともに畳は敷きつめられるようになります。座敷において座敷飾りと畳はセットで必須であり、書院造や数寄屋建築を和の住まいの原型だとすると、畳が敷きつめられているのが和室ということになるのでしょうか。

結論から言うと、私は、畳はやはり和の住まいに必須かな、と（今は）思っているのですが、その最も大きな理由は実は書院造ではありません。寸法です。十寸で一尺という中国由来の寸法単位に、一間＝六尺という寸法単位が割り込んでいますが、「間」という単位は中国にはなく、日本オリジナルなのだそうです。そして「間」こそが、畳の大きさです。そもそも一間が六尺と定まっていたのは明治時代で、古代では十尺から七尺の間でばらつきがあったそうですが、地域によって畳の大きさが違うのですから当然です。住まいにおいては、「間」という「畳モジュール」が使用され、それは和の居住文化にかかわる日本人の様々な立ち居振る舞いに最適な寸法となっています。そして、「生活空間だけでなく、生産者にとっても都合のよい寸法なのです」※7。畳の大きさを基準として日本の住まいは作られる。さらに、畳は長さだけでなく広さの基準にもなります。八畳の間がどのくらい大きいか、私たちは知っている（世代によりますが）。和室が一室もないマンションの住戸の、畳が絶対敷けそうにない狭い室にも「4.0畳」と書いてある。長さと面積を牛耳っているのが畳なら、やはり必須と言わざるを得ないのではないかと感じるよう

になりました。

洋風の空間にとってつけたような和室がしつらえてある場合があるのですが、そんな場合も、せめて寸法だけは「畳モジュール」を感じる空間であって欲しいと思います。

※1 清家清監修『すまいの歳時記―伝承の暮らしとつらい―』講談社、1985

※2 西山卯三『すまい考今学 現代日本住宅史』彰国社、1989

※3 他にも『日本人とすまい①靴脱ぎ』リビングデザインセンターOZONE、1996など。

※4 平井ゆか唯『無二の畳』和室学』平凡社、2020

※5 中川武『日本の家 空間・記憶・言葉』TOTO出版、2002

※6 本間博文・畑聰一編著『住まい論』放送大学教育振興会、2010

※7 内田祥哉『日本の伝統建築の構法 柔軟性と寿命』2009

# Event 2022 Calendar

## 2 ← 1

 Exhibition  
Seminar  
Symposium  
Event

### 京彩まちあるき+デジタルマップ整備 ヘリテージマネージャー委員会

#### <京都市左京区一乗寺>

- 日 時 1月16日(日)  
午後1時～4時
- 集 合 午後0時50分 雲母湯付近  
(京都市左京区一乗寺西浦畑町53)
- 会 場 京都市左京区一乗寺  
燈籠本町付近
- 参加費 無料
- 定 員 15名(定員になり次第締切)
- 申込締切 1月7日(金)
- 内 容

みちゆきの歴史ある建物等は、デジタルマップに、その位置等を記録します。それらの内で、京都を彩る建物や庭園に相応しいものは京都市文化財保護課へ推薦し、歴史的建造物の保存・保全の一助とします。ヘリテージマネージャーの方に限り、非会員の方もご参加いただけます。

※2021年5月に実施予定でしたが、緊急事態宣言の発令にともない、日程を延期しました。

※参考 <http://kyoto-irodoru.com/>

### 令和3年度 既存住宅状況調査技術者講習 事業委員会

#### 【更新】

- C P D 2単位
  - 日 時 1月27日(木)  
午後1時20分～4時50分  
(受付/午後12時50分～)
  - 会 場 京都建設会館別館 4階会議室
  - 申 込 (公社)日本建築士会連合会  
HPよりお申し込みください。
  - 内 容
- 国土交通省の既存住宅状況調査技術者講習制度の講習を修了した既存住宅状況調査技術者が対象。資格取得年度の3年後の年度末までが有効期間です。

<事業に参加される方へ>  
新型コロナウイルス感染予防のために

- ・感染拡大の状況により事業を中止または内容を変更することがあります。
- ・参加される際は必ずマスクを着用してください。(熱中症などの対策が必要な場合を除きます。)
- ・37.5℃以上の発熱や咳、くしゃみ等の症状のある方は参加できません。
- ・事業実施中は係員の指示に従い、手指の消毒や手洗い、対人距離の確保(推奨2m、最小1m)など、基本的な感染対策にご協力ください。
- ・係員の指示に従わない場合は、参加をお断りする場合があります。
- ・感染拡大防止のため、連絡先の登録や接触確認アプリのインストールにご協力をお願いします。

### 建築家セミナー2022 永山祐子 講演会

青年部会 フォーラム・セミナー担当会

- C P D 2単位
  - 日 時 2月26日(土) 午後2時～4時  
(受付/午後1時30分～)
  - 会 場 ウィングス京都  
2階イベントホール  
京都市中京区東洞院六角下る  
※地下鉄烏丸御池駅(5番出口)  
地下鉄四条駅・阪急烏丸駅(20番出口)  
より徒歩約5分
  - 講 師 永山祐子 氏  
建築家・永山祐子建築設計主宰
  - 参加費 無料
  - 定 員 200名  
(要 事前申込、先着順)
  - 申込締切 2月24日(木)
  - 内 容
- 今回の建築家セミナーは、現在開催中の「2020年ドバイ国際博覧会日本館」や「ルイ・ヴィトン京都大丸店」を設計するなど、新進気鋭の建築家として世界中から注目される永山祐子氏をお招きします。

### 令和3年度 監理技術者講習 事業委員会

- C P D 6単位
  - 日 時 第4回 3月2日(水)  
受付開始/午前9時  
運営説明/午前9時20分～9時30分  
講習/午前9時30分～午後5時10分
  - 会 場 京都建設会館別館会議室
  - 定 員 20名(定員になり次第締切)
  - 内 容
- 建築士会が行う『監理技術者講習』の大きな特徴は、『建築に特化した講習内容』であり、特にテキストは分かりやすく、建築施工実務に役立つだけでなく建築工事全体について学習できる充実した内容となっています。また、法定講習であると同時に建築士会CPD認定研修でもあります。設計業務にのみ従事されている方も建築施工の知識を得るために、この機会にぜひ積極的にご受講ください。

#### お知らせ

#### 「京都だより」特集まとめ

(一社)京都府建築士会のホームページで、「京都だより」の特集をまとめたPDFをご覧ください。

## 1

January

- Tue 4 事務局仕事始め
- Fri 7 新年交礼会
- Tue 11 常任理事会
- Sun 16 京彩まちあるき+デジタルマップ整備  
<京都市左京区一乗寺>
- Mon 24 支部長会議・理事会
- Thu 27 既存住宅状況調査技術者講習(更新)
- Sat 29 近畿建築祭(兵庫大会)

## 2

February

- Wed 2 すべての建築士のための総合研修
- Mon 7 常任理事会
- Fri 18 代議員選挙投票期限  
茶室設計勉強会(第3回)
- Sat 26 建築家セミナー2022  
永山祐子講演会

※注意：京都建設会館の駐車場は  
利用できません

### 参加申込

電話・FAX、またはホームページからお申し込みください。事業内容の詳細は、ホームページをご確認ください。

(一社)京都府建築士会事務局  
TEL075-211-2857 FAX075-255-6077  
<https://www.kyotofu-kenchikushikai.jp>  
E-mail:contact@kyoto-kenchikushikai.jp



# 文化的持続可能性を含めたSDGs+活動の推進

一般社団法人 京都府建築士会 会長

高田 光雄



みなさま、新年あけましておめでとうございます。

昨年同様、地球規模での感染症パンデミックの中で、今年も新年を迎えることになりました。わが国においては、感染第五波の後、感染者数の大幅な減少が見られましたが、第六波がいつどのように来るのか、不安な状況が続いています。

このような状況の下で、(一社)京都府建築士会においては、これまでと同様、その時々状況に応じて、適切なリスク管理を行いながら、活動を継続・発展させていく方法を積極的に探っていきたいと思います。引き続き、会員の皆様のご理解とご協力をお願い致します。

特に、本年は、本会創立70周年を迎えることとなります。私自身も昨年古希を迎えました。京都府建築士会も本年古希を迎え、改めて70年間の活動を振り返るとともに、これからの活動を展望する節目の年としたいと考えています。

また、次年度は、近畿建築祭を京都で開催することになっています。建築祭開催日は本年秋以降になる可能性が高いですが、いずれにせよ本年は開催に向けた様々な準備を行う重要な年となります。これらの活動についても、会員の皆様の積極的なご参加をお願い申し上げます。

一方、昨年は、感染症拡大の中で、「人

新世Anthropocene」や「グレート・アークセレーションGreat Acceleration」などの言葉が飛び交ったように、人類の活動が原因となる環境の劇的な変化を抜本的に捉え直すとする動きも活発化しました。こうした動きの中で、国連が提唱し、各国の政府や自治体、民間企業や民間団体が連携して推し進めているSDGs活動は、「焼け石に水」とか「免罪符」という批判も出てきていますが、「SDGs活動こそが現代社会の抜本的見直しのステップである」という主張も強まっており、(一社)京都府建築士会としては、従来通りSDGsの目標に建設的批判を加えながら、より積極的な活動を推進したいと考えております。すなわち、SDGsの趣旨、グローバルな視点、多くの目標の同時的解決を目指す構えなどを尊重しつつ、経済、社会、環境に加えて文化的持続可能性という側面を重視し、とりわけ京都の建築関連事業における「環境と文化のAufbau」を支援する活動を推進したいと考えています。こうした取り組みは、EUで進められている「新欧州バウハウスNew European Bauhaus」などの取り組みとも呼応するところがあり、環境政策における建築の位置付けや建築士の役割を問い直す契機とも

なると考えています。

ところで、私が衛藤顧問から会長のバトンを引き継いで約3年半が経過しました。この間、京都の建築士と社会との結びつきを一層強め、真に社会に貢献できる建築士会を構築するため、役員の皆様とともに下記の重要課題に取り組んできました。

## (1) 建築士会の基盤整備

会員の皆様方がより積極的に建築士会の活動に参加していただけるための体制を整備するため、諸規定の整備、事務局体制の再構築、保険業務の抜本的見直しなど、建築士会の組織的基礎を確立するための取り組みを進めてきました。

## (2) 会員増強策の検討

会員満足度の拡大、入会促進方策の検討を進めてきました。新入会員の皆様を対象としたオリエンテーションを充実させるとともに、現会員のニーズに的確に応え、建築士試験制度の改正も踏まえ、学生対象事業も強化してきました。

## (3) 情報発信力の強化

感染症パンデミックの中で活動を続けるための情報化対応を進め、SNSなど広報媒体拡大の検討を行ってきました。長年継続してきたFMラジオ放送をYouTubeに切り替え、事業情報などを迅速かつ正確に伝えるためのルールの策定なども行っ

きました。

## (4) ネットワークの強化

連合会、他の単位士会、行政、他団体、海外などとの連携のあり方を見直し、京都府建築士会の社会的地位向上、会員拡大や事業推進のための連携のあり方について検討を進めてきました。行政、他団体と連携した資格者養成講座の運営にも参加しています。

## (5) (一社)京都府建築士会ミッションの実践

建築士会京都大会の成果を踏まえ、これからの事業・活動を包摂する京都府建築士会のミッション「木の文化を育む建築・まちづくりの推進」を定め、その実現にむけて、各委員会・部会・研究会の活動を重ねてきました。さらに、京都市におけるSDGs活動推進とも連携して、ミッションを「文化的持続可能性を含めたSDGs+活動の推進」と再定義し、活動の強化を図ってきました。前述のような背景から、この活動を今後一層推進したいと考えております。

これらの課題への取り組みは、まだ道半ばではありますが、今後もブレることなく進めていく所存です。会員の皆さまのご理解、ご協力をお願い申し上げます。



# 府民の皆さまと力を合わせ 京都の夢を実現

京都府知事

西脇隆俊



あけましておめでとうございます。府民の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年の新型コロナウイルス第5波では、これまでに経験したことのない感染拡大を引き起こしました。この波を乗り越えられたのも、すべての府民の皆さま・事業者の皆さま、そして医療従事者をはじめ関係の皆さまのご協力の賜であり、心から感謝と敬意を表する次第であります。

人類が対峙する新型コロナウイルスは、生命や健康を脅かすだけでなく、世界経済

をも混乱に陥れました。われわれは感染予防対策を日常生活に取り入れ、ワクチン接種を進め、医療提供体制を整えるなど、この困難を乗り越えるため、力を合わせ立ち向かっています。

「あなたが一人で見る夢はただの夢だ。みんなで見ると夢は現実になる」

「A dream you dream alone is only a dream. A dream you dream together is reality」

これは、ヨーコ・オノとジョン・レノンが伝えるメッセージです。

われわれは困難を乗り越えた先に見える

「夢」を現実のものとするため、力強く歩まなければなりません。夢の形は人それぞれですが、誰もが夢を抱き、夢に向かってチャレンジすることができる社会を築きたい。そのためには「府民と共に京都夢実現プラン（京都府総合計画）」をさらに前進させる必要があります。

こうした中、これからの京都発展の原動力となる文化庁の京都移転、新名神高速道路の開通、大阪・関西万博の開催が続きます。時機を逸することなく、京都が持つ魅力の源泉である文化の価値をしっかりと国内外に発信することはもちろん、基盤整備

を活かした産業戦略と一体となった雇用戦略の展開など、京都の夢を実現するため、着実に取り組んでまいります。

今年は寅年です。「寅」は動くを意味し、芽の出たものが成長していく年です。明治以来初の中央省庁の移転となる、文化庁の京都移転という新しい幕開けに向け、この一年がよりいっそう弾みとなりますよう、皆さまと一緒に夢に向かって邁進してまいります。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

# 持続可能な財政を確立し、魅力あふれる京都を 共に未来へ！ 改革に邁進します。

京都市長

門川大作



あけましておめでとうございます。

まずは御礼を申し上げます。昨年はコロナ禍の厳しい日々でした。そんな中、命と健康、暮らしを共に守り抜く！ 本市では医療関係者はじめ市民・事業者の皆様の御理解の下、医療・検査・相談体制を大幅に強化。ワクチン接種も大きく進みました。

そして迎えた新たな年。第6波に備えつつ、市会、市民、各界代表の皆様と対話を深め、府市協調で切れ目のないコロナ対策を推進。市民生活・雇用・経済・教育・文化・観光の下支え、回復に全力投球します。本市ではこれまで、福祉、教育、子育て支援等の分野で、国の水準を上回る施策を

展開。それらは、全国トップ水準の福祉、子育て、保育・幼児教育の質の確保や保育所等待機児童8年連続ゼロ、小・中学生の学力全国トップレベル、都市格の向上、「SDGs先進度」全国1位等の高い評価につながっています。一方、この間、年間人件費270億円削減をはじめとする行財政改革を推進。経済も活性化し、コロナ前の5年間で市税収入は9%増となり、過去最高を更新しました。

しかし、収支不均衡の構造が長く続く中、国からの地方交付税が大幅に削減され、そこへコロナ禍。本市の財政は今、危機に直面しています。輝かしい京都の未来のため、

子どもたちや困難を抱える方々のために、まずは市職員の給与カット等の行財政改革を断行。限られた財源を吟味・再配分し、市民の皆様に丁寧な御説明しながら、京都ならではの福祉、子育て、教育、安心安全をしっかりと守ってまいります。

同時に、京都の強みを生かした成長戦略にも着手。激甚化する災害への備えとともに、「2050年CO2排出量正味ゼロ」に

に向けたまちづくり、産業用地・オフィス、働く場所の確保や住居の創出で若い世代に選ばれる都市に。「誰一人取り残さない」デジタル化の推進など、挑戦と改革で確かな未来を展望します。

今後、「文化庁」が京都に全面的に移転。政府機関の移転は明治維新後初のことで、さらに、京都駅東部・東南部へ「京都市立芸大」とアート集団「チームラボ」が進出を控えるなど、地域と経済を元気にする創造的なプランが各所で始動しています。先端企業やスタートアップが次々と京都で生まれ、また、拠点を置く流れも更に加速させていきます。

魅力と活力ある京都のまち、持続可能な未来へ。覚悟を決めて市民の皆様と共に歩みを進めてまいります。

# 新年あけましておめでとーづーいいます

丹後支部  
支部長

岩田 信一



宮津支部  
支部長

大村 利和



舞鶴支部  
支部長

西井 正志



福知山支部  
支部長

下村 真一



綾部支部  
支部長

北原 章裕



会員の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新年早々新型コロナウイルスを話題にしたくありませんが、昨年すべての活動に大きく影響しました。建築士会活動、空家に関する活動、ヘリテージに関する活動、企画された事業がごとく中止となりました。そして全国大会広島大会に行けなかったことが残念でなりません。本文書を執筆している現在、全国的に感染者数が減少しています。このまま維持し、すべてにおいて復興できることを願っています。

こういった情勢の中だからこそ、今まで常識とされてきた事柄を見直す機会ができ、新たな課題を見直すチャンスが与えられたのかもしれない。都会への一極集中の愚かしさと地方の重要性、SDGsをうたいながらの環境破壊。伝統建物は土にかえる素材であるとともに数百年耐えるものであるが、昨今の木質化は如何に。結局建築そのものが環境破壊である事実。

答えは丹後にあるのかもしれないと考えています。今こそ我々は建築士として社会的に望まれることに対し誠実に向き合い、精一杯活動していきます。

コロナ禍による大きな社会変化が起きて2年になります。一昨年の先が見えない不安な手探り状態から、昨年は良くも悪くも受け入れながら社会活動を再開していく状況へと変わりました。そうした中、テレワークやWEBによる会議などが常態化し、これまでの時間の使い方や会議などの価値観も確実に変わってきたように思います。特に地方に住む者にとってはこれまでの「会議より長い移動時間」を有効に使えるようになり、むしろ、距離を気にせず人と交流することも容易になりました。しかしながら、一方では「時間をかけて人と会い、語り合って深めていく」というこれまでの時間の質は失われたように思います。時間以外にも経済や社会のいろんなシステムや価値観が変化した一年でした。

今年は、こうした人々の価値観の変化や気づきが原動力となり新たな時代が始まるような気がします。そしてその指針となるのはSDGsに掲げる「持続可能性」というキーワードでしょうし、建築士はそれを具現化するまじづくりに関わる職業であると思います。将来、2022年が宮津与謝地域にとって、持続可能なまちづくりに向けて大きな変換点であったと思える年になることを願って新年を迎えたいと思います。

皆さま健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、新型コロナウイルスで明け暮れた一年でした。そんな中、ウッドショックは原油、半導体などと同様に日本経済の大きな問題となりました。木材が世界経済の動きと連動していることを知らしめ、大きな衝撃を我が国の建築業界に与えました。

また、環境、エネルギーにも世界の関心が高まっています。COP26で気候変動の枠組みが話し合われましたが、地球温暖化対策が必要と理解していても世界各国がまとまらず先が見えない状況です。

一方、私達建築士の前には建築物省エネルギーの計算ソフトが待ち構えています。特に私のような高齢者には辛い技術です。しかし、これからの設計は、インターネットでコミュニケーションを取り、情報収集し、三次元で考え、バーチャル・リアリティな表現で建築を作っていく時代です。新しい技術で人と建築がどう変わっていくか楽しみです。

最後になりましたが、会員の皆様のますますのご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

会員の皆様におかれましては健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は支部活動にご協力を賜り御礼申し上げます。

当地におきましてもコロナ禍の影響はまだ収まっておらず、特にウッドショックや建築設備機器の納入の遅れなど、地方末端の業界にもあまねく打撃を与えている状況です。しかし一方では、流行自体の沈静化によって医療現場の危機的状況はなんとか回避できているようにも思います。とはいえまだ第6波という懸念も払拭されておらず引き続き行動変容による感染防止に努める必要があります。

行動変容といえど、昨年のご挨拶でも申しましたことですが、建築業界におけるリモート環境の整備の進捗は、少し止まってしまったようにも感じています。やはり建築が現場でなければ造れないものである限り、リモートには限界があるということでしょうか。支部活動についても、現実には顔を合わせることなく、オンラインのやりとりで済ませることが殆どとなっていますが、やはり血の通った活動とするためには、オフラインで、バーチャルではなくリアルな場を持つことが必要であると感じています。

本年は新型コロナウイルスが収束し、以前とはまったく同じというわけにはいかないけれども、本来の活動に戻ることを願っています。本年もご指導ご協力のほどよろしくお願い致します。

会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えの事とお慶び申し上げます。

さて、昨年に引き続き新型コロナウイルスの影響により世界各地で多くの犠牲を払いました。変異株を持つウイルスが次々と発生、経済活動がストップし、建材や物資の入荷待ちに依り、物価上昇にも繋がりました。

我々の仕事においては、令和4年4月1日以降に開始する工事から石綿の事前調査結果の報告が義務化されます。報告が必要な工事の対象には、80㎡以上の解体工事もとより、請負金額が100万円以上の建築物の改修工事に付いても工事開始前の労働基準監督署への報告義務が発生し、建設に携わる者にとっては益々厳しい条件が付くこととなります。令和3年4月から施工された工事開始前の石綿の有無の調査や除去工事の規制強化だけでなく、今後は有資格者に依る調査が必要となり、仕事の手間が増えることは否めません。

また、一方では化石燃料の削減や地球温暖化防止対策が重視されるなか、建築士の使命が益々問われる時代となります。多岐に情報収集し、柔軟に対応できるように備えたいものです。

後になりましたが、本年も会員の皆様のご協力、ご支援を何卒宜しくお願い致します。



南丹支部  
支部長  
鈴木 猛史



平素は支部運営・活動にご尽力賜り、御礼申し上げます。会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えることと、お慶び申し上げます。

昨年も夏から秋にかけてまで新型コロナウイルスの影響が大きく、支部の活動や事業も制限されてしまいました。今年の活動や事業に関しては、南丹支部創立五十周年が近付く中で、できるだけ多くの会員の皆様に参加していただけるよう、オンラインの活用など新たな方向性も考えて参ります。建築に関する事業以外にも、会員相互の交流や情報交換の場などが提供できるように努力して参ります。

個人的には京都サンガFCがJリーグ一部に復帰し、観戦の楽しみが増えました。より多くのアウェイサポーターが、南丹地域やサンガスタジアム by KYOCERAに來られること、観光や飲食などを楽しんでいただけるような状況になって欲しいと思っております。

最後になりましたが、本年も皆様方からのご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

宇治支部  
支部長  
河原林正樹



会員の皆様におかれましては、健やかに新年を迎えることとお慶び申し上げます。平素は、支部活動にご尽力、ご協力を賜り御礼申し上げます。

昨年は、一昨年同様、新型コロナウイルスの影響により、支部の事業もほとんどできずに終わろうとしておりますが、『京の文化にふれる会』は少しでも早く実行できるよう調整させて頂いております。

この2年の間でテレワークやリモート会議などによる環境が普通のことのようになりました。このスタイルは今後も継続されることと思えます。この環境は必要と捉えつつも、直接話し合う機会が少なくなり寂しいように感じております。やはり少しだけでも人と触れ合いながら話せる機会を支部の事業で行えればと考えております。

また、空き家対策や既存ストックの活用などの様々な課題に向き合えるよう努めて参りたいと思っております。

今年も新型コロナウイルスの影響が読めない状況であります。徐々により良い方向へ改善されていくかと思っております。周年事業や昨年できなかった事業と併せて、役員の皆様と共に取り組んで参りたいと思えます。これらの活動を通じて支部会員の皆様と共に、研鑽を積んでいけることを望みます。

最後になりましたが皆様方のご健勝とご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせていただきます。

京南支部  
支部長  
吉田 正美



皆様におかれましては、良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は支部運営にご協力ご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年中は思うような事業や活動を行う事ができず大変もどかしい1年でした。日本中、世界中の人々が大変な影響を受け生活されていたと思えます。

本年は当支部におきまして、細心の注意をはらい事業の再開を徐々に実施したいと思えます。

出前講座の実施や、勉強会、見学会なども開催する予定です。この様な事業以外にも今後新たな事業を計画して、会員の皆様とともに活力のある支部にしていきたいと思えますので、ご指導、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

青年部会  
部長  
瀧口 静



昨年に続きコロナ禍の中、皆様方には青年部会の事業にご協力を頂き、大変感謝申し上げます。さて今年は壬寅年だそうので、【壬はお腹に子供を宿す、妊】の一部分から、生まれる」という意味。【寅は元々寅が由来で八人の前に立つV△延ばす、成長するV】という意味だそうです。この二つを組み合せると【新しく立ち上がる、生まれた物が成長する事】といった縁起の良い年。私達もコロナ禍での活動を機に新しい事にチャレンジし、SDGsの関連した事業も意識して行動してきました。

約2年間、コロナ禍で培った事に様々な気付きがあり、こうせなあかん！と考えていた事が今年肉付けされて成長し、組織を強化し、新しい形での青年部会を作って行くには良い年だと、冒頭の干支を見て思った次第です。

昨年の10月には新型コロナウイルスの緊急事態が解除され建築士会の事業についても再開し始めました。青年部会での会議は、リモート会議も慣れてきて、移動時間が無い快適性を実感しておりますが、やはり青年のメンバーと直接顔を見た時の嬉しい感情は掛け替えの無い物だと実感しています。

親睦交流を目的としたグランピングは心底楽しめました！

新型コロナウイルスは様々な事を教えてくれたと思います。今年一年楽しく青年らしく活動できまう様、皆様温かく見守って頂ければ幸いです。

女性部会  
部長  
富山 育子



みなさまにおかれましてはお健やかに新年を迎えられたことと御慶び申し上げます。日頃は女性部会の活動に御理解と御指導を賜りありがとうございます。

一昨年から感染症の猛威の前に、私共の活動のスタイルは大きく変わりました。見学会や会食を伴うミーティング等は回避し、定例部会はオールリモート、講座はリモート併用等、現実的に対処しながら、これを契機とした積極的な情報化の推進に努めてまいりました。

とりわけ、私共の世代に託された責務であるSDGs（国連が定めた持続可能な開発目標）の勉強会を、連続講座として「今だからSDGs！始めた人になってしまおう」を実施し、「SDGsの振る舞いに慣れる」をスローガンにフォローアップとして実践してまいりました。

これらを踏まえ、今後も建築士会のみならずをはじめ様々な分野のみならずとの連携を図りながら、環境の持続可能性と京都ならではの文化との融合から到達する高い境地を目指したいと考えています。

私共の実態はと申しますと、志は高く、垣根は低く。クレバーで愉快な仲間ばかりでいつもわちゃわちゃ楽しく活動しています。

本年も、みなさまから御指導と御協力を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

# 歴史的街区に備わる 伝統的緑地による防火性能の評価

大窪健之

立命館大学教授  
理工学部環境都市工学科

砂田 陸

東日本電信電話株式会社

金 度源

立命館大学准教授  
理工学部環境都市工学科

## 1 はじめに

### (1) 本稿の背景

国指定の文化財である重要伝統的建造物群保存地区（以下、重伝建地区と略称する）は、歴史的な町並みの保存を目的として選定されている。これらの地区は、歴史的実を空間的に伝える文化財として観光資源等に活用されつつも、人々の生活が営まれている生きた文化財でもある。

一方で、重伝建地区に代表される歴史的な町並みは、一般に木造建築物が密集し街

路幅員も狭いために、歴史上幾度も火災被害に遭っている場合が多い。

このような背景から、歴史的な町並みには「滅災の知恵」と呼ばれる伝統的な防災上の工夫が地区の歴史と共に継承されているケースも少なくない<sup>1)</sup>。全国の重伝建地区の中には、歴史的景観の構成要素として特徴的な緑地を有している地区が複数存在している。そして樹木が群として存在している地区については、緑地が一定の延焼抑止効果を有している可能性が指摘されている<sup>2)</sup>。

### (2) 本稿の目的

本稿では、物理的延焼性予測モデル<sup>4)</sup>を用いて、伝統的な緑地の延焼抑止効果を検証する。その上で、緑地所有者の住民や重伝建地区を担当する行政への聞き取り調査を実施し、伝統的緑地の防災利用を図る上での検討課題を明らかにする。以上を通して、歴史的町並み保存と災害安全性の向上の両立可能性を示すことを目的とする。

### (3) 調査・分析の方法

#### a) 物理的延焼性予測モデルの概要

本稿では、地区の延焼危険性を科学的に評価するために、物理的延焼性予測モデル<sup>4)</sup>を使用した。このモデルは、市街地における火災拡大を現象の物理的な知見に基づいて定式化したものである。モデル内では、都市火災を多くの建物火災の集合と捉え、他の建物火災の影響下における個々の建物火災の延焼性予測を可能としている。市街地全体の延焼性予測を可能としている。

#### b) 調査・分析の構成

本稿では、歴史ある木造密集市街地にある伝統的な緑地帯の延焼抑止効果をマクロ

（広域的）とミクロ（部分的）な視点から検証し、併せて実際に緑地保全をすすめる上での課題について整理するために、図1に示す手順で分析を行う。

## 2 検証地区の選定

### (1) 地区抽出プロセス

まず本稿で対象とする地区を選定するため、歴史的街区内の樹林による防火性能に着目した高松らの研究<sup>2)</sup>から、地区抽出プロセスを援用した。

文化庁が公表している重伝建地区の概要一覧<sup>5)</sup>の「町並みの特徴」欄を参照した結果、緑地に関する記載があり、かつその緑地が防火を目的として伝統的に整備されてきたことが記載されているのは、渡名喜村渡名喜島重伝建地区の1地区のみであったため、当該地区を1つ目の対象地区とした。

一方、概要一覧には防火を目的として整備されたものとは記載されていない緑地であったとしても、延焼抑止効果を発揮する可能性が指摘されている<sup>2)</sup>。このため、緑地を有しつつも延焼リスクの高い地区を2つ目の対象地区とするべく、地区内の一部または全部が人口集中地区（DID）であり、かつ木防建べい率が40%以上の地区を抽出の基準とした。以上の結果、高岡市金屋町重伝建地区が2つ目の対象地区となった。

### (2) 検証地区の概要

#### a) 渡名喜村渡名喜島重伝建地区

沖縄県の渡名喜島に所在する渡名喜村渡名喜島重伝建地区は、福木の屋敷林が特徴的な町並み景観を形成している。福木の屋敷林は、図2に示す通り民家を取り囲む形で植生しており、防風・防火のために古くから整備されてきたとされている<sup>7)</sup>。また、これらの屋敷林の多くは環境物件にも設定されており、224件の屋敷林が歴史的景観を構成する要素として保存の対象となっ

ている<sup>7)</sup>。本稿では、この屋敷林による延焼抑止効果を科学的に評価することを目指して、延焼シミュレーションによる検証を行う。

#### b) 高岡市金屋町重伝建地区

金屋町重伝建地区は、富山県高岡市に所在しており、鋳物師の町として栄えた歴史がある。多くは短冊状の敷地割りで道路に面して主屋が建てられ、中庭を挟んで土蔵が建ち、さらに作業場が置かれるといった建物配置をとっている。すなわち、万一火の気のある作業場から火災が発生しても主屋に燃えうつらないような地割と建物配置の工夫が、伝統的になされてきたものと考えられる<sup>8)</sup>。街区レベルでは、この特徴的な地割が連続することによって図3のように中庭が街区の奥で連担することになり、防火帯として機能する可能性がある。ここでは中庭の群としての延焼抑止効果を延焼シミュレーションによって検証することとした。

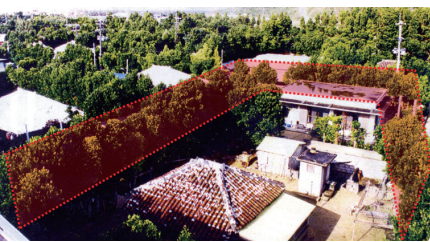


図2 渡名喜島重伝建地区の民家を囲う屋敷林  
(渡名喜島歴史的景観保存計画書より引用し筆者加筆)

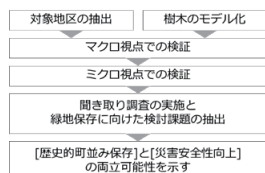


図1 調査・分析のフロー



図3 金屋町重伝建地区の連担する中庭  
(Googleマップより引用し筆者加筆)

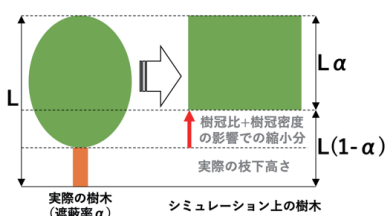


図4 遮蔽率の表現







表1 樹木の遮熱力


樹木の要素	類型	物性値
樹冠比	I型	0.5
	II型	0.6125
	III型	0.725
	IV型	0.8375
枝下比	L型	0.02
	M型	0.27
	H型	0.42
樹冠密度	常緑広葉樹	0.884
	落葉広葉樹	0.827
	針葉樹	0.942

表3 建物データの属性値収集項目

属性値	備考
① 高さ	
② 階数	木造
③ 構造種別	防火木造
	準耐火造
	耐火造

表2 緑地データの属性値収集項目

属性値	備考
① 位置	
② 高さ	
③ 樹冠比	I型： 
	II型： 
	III型： 
	IV型： 
④ 枝下比	L型： $H_c / H_t = 0.02$ 程度
	M型： $H_c / H_t = 0.27$ 程度
	H型： $H_c / H_t = 0.42$ 程度
⑤ 樹葉形態	常緑広葉樹
	落葉広葉樹
	針葉樹



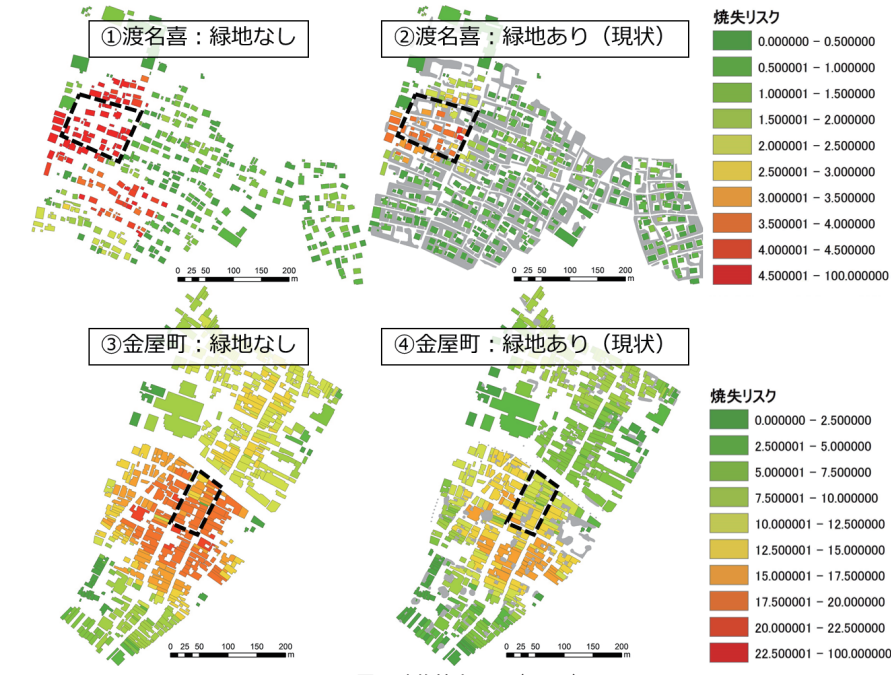


表4 計算条件(マクロ)

条件項目	計算条件
検証手法と目的	渡名喜 金屋町 モンテカルロシミュレーションによる建物焼失リスクの算出
着目範囲	一体的に延焼が及ぶ可能性がある範囲
計算時間	24時間（最大値）
実行回数	426回（建物総数と同値） 492回（建物総数と同値）
出火建物	ランダム
気象条件	ランダム
緑地の条件	緑地なし・緑地あり（現状）

表5 計算条件(ミクロ)

条件項目	計算条件
検証手法と目的	渡名喜 金屋町 時間断面で見た延焼動態の観察および焼失リスクの算出
着目範囲	マクロ視点の結果を参考に決めた街区
計算時間	60min（10min間隔）
実行回数	31回（着目街区の建物総数と同値） 50回（着目街区の建物総数と同値）
出火建物	着目街区内の各建物1回
気象条件	気温：23.3度（平均） 風速：39m/s（過去10年間の最大値） 風向：北東（最頻値）
	気温：14.3度（平均） 風速：18.7m/s（過去10年間の最大値） 風向：南西（最頻値）
緑地の条件	緑地なし・緑地あり（現状）・緑地あり（追加） 緑地なし・緑地あり（現状）

樹木の遮熱力

表1 樹木の遮熱力

表2 緑地データの属性値収集項目

表3 建物データの属性値収集項目

表4 計算条件(マクロ)

表5 計算条件(ミクロ)

図5 建物焼失リスク(マクロ)

3 緑地の表現手法の検討

(1) 樹木の防火機能

まず緑地を延焼シミュレーション上で表現するため、樹木のモデル化を試みた。樹木は「耐火力(火にどれだけ耐えるか)」と「遮熱力(熱をどれだけ遮断するか)」の2つの防火機能を有することが福嶋の研究<sup>9)</sup>によって明らかになっている。ここでは、延焼抑止に大きな影響を与えることが予想される遮熱力に着目し、樹木を「遮熱特性を有する擬似的な建物」として捉え、延焼シミュレーション上でモデル化することとした。

なお耐火力については、各種樹体の含水量や含有成分・樹体表面の構造など、生命体としての複雑さから、十分に説明が進んでいないと見做す<sup>10)</sup>。パラメータの設定は困難となつてゐる。ただ、通常の大気中で適切に整備された「生きた樹木」であれば、着火しても炎上に至らない事が明らかになっている<sup>9)11)12)</sup>。これらの理由から、本稿の範囲では樹木を不燃物として想定して評価することとした。

(2) 遮熱力の表現手法

樹木の遮熱力は、熱を遮る割合「遮熱率」で表現される。また既往研究<sup>13)</sup>より、樹木の遮熱率は遮蔽率に係数1で正比例することが明らかになっている。即ち、樹木の遮熱力は樹木の遮蔽率を算出することで表現できる。また斉藤<sup>14)</sup>は樹木を、樹冠、枝下、樹冠内の3要素に分解し、樹木の遮蔽率を次式(1)で算出している。

樹木の遮蔽率<sup>11)</sup>

(樹冠比)×(1-枝下比)×(樹冠密度)(1)

本稿でもこの手法を援用することとし、算出された遮蔽率を樹木高さに乗じ、遮蔽率に応じて高さ方向を縮小した物体として表現する。ただし外形が大きく変化しない

4 延焼抑止効果の検証

(1) 必要データの収集

a) 建物データ

延焼シミュレーションへの入力のため、検証地区内における各建物の属性値を収集し、整理を行った。建物配置は、国土地理院が提供している建物ポリゴンデータを使用している。各建物について収集が必要な属性値は、高さ・階数・構造種別の3種類である。属性値の詳細を表3に示す。

b) 気象データ

延焼シミュレーションに使用する風速・風向・気温は、各地区の最寄観測所(伏木測候所、久米島測候所)において2009年から2018年に観測された気象データをランダムに使用した。いずれの地点でも10年分の日数から1/10以上の出現確率となる400件以上の気象データを使用するため、異常気象等についても一定程度含んで検証できると考えた。

(3) 緑地データの収集

延焼シミュレーションへの入力のため、各地区の緑地データを収集した。現地調査と資料調査によって地区内の樹木エリアを描画し、各樹木エリアについて属性値を収集した。収集した属性値は、位置・高さ・樹冠比・枝下比・樹葉形態の5種類である。属性値の詳細を表2に示す。

表6 聞き取り調査の概要

項目	渡名喜島重伝建地区		金屋町重伝建地区	
	行政	住民	行政	住民
実施日	2019年12月	2020年1月	2019年12月17日	2019年12月16日
対象者	渡名喜村教育委員会教育行政課 担当者 様	渡名喜村伝統的建造物群審議委員会 会員 様	高岡市教育委員会事務局文化財課 担当者 様	金屋町まちづくり協議会 前会長 様
実施方法	メールと書面	行政経由で書面	対面ヒアリング	対面ヒアリング
ヒアリング 項目	伝統的緑地の変遷について			
	地区内での火災について			
	緑地に関する今までの取り組みについて			
	緑地の保存に関する今後の考えについて			
	緑地を保存していく上での問題点について			

表7 聞き取り調査の結果摘要

	渡名喜島重伝建地区		金屋町重伝建地区	
	行政	住民	行政	住民
摘要	・以前は、民生課で屋敷林の保全を行っていたが、現在は行っていない。 ・基本的には個人の財産のため、個人の管理に委ねられている。 ・住民の高齢化によって、個人の管理が難しくなっている。	・枝の剪定は、個人で実施する。 ・屋敷林によって、台風の被害がでなかった経験がある。	・伝建制度上は適用外のため中庭保存には関与していないが、本質的には保存を促したい。 ・ただ、中庭の防火効果が認められれば、行政的に保存すべきとの議論は必要。 ・外部から望みできないとの理由から、中庭取り壊し等については伝建制度では口出しできない。 ・住民高齢化や空家増加によって、中庭植栽の管理者不在が問題になりつつある。	・植栽の手入れは大変。枝の剪定には金銭的負担もある。 ・高齢者も多く、中庭の植栽を維持しているのが難しい家もある。

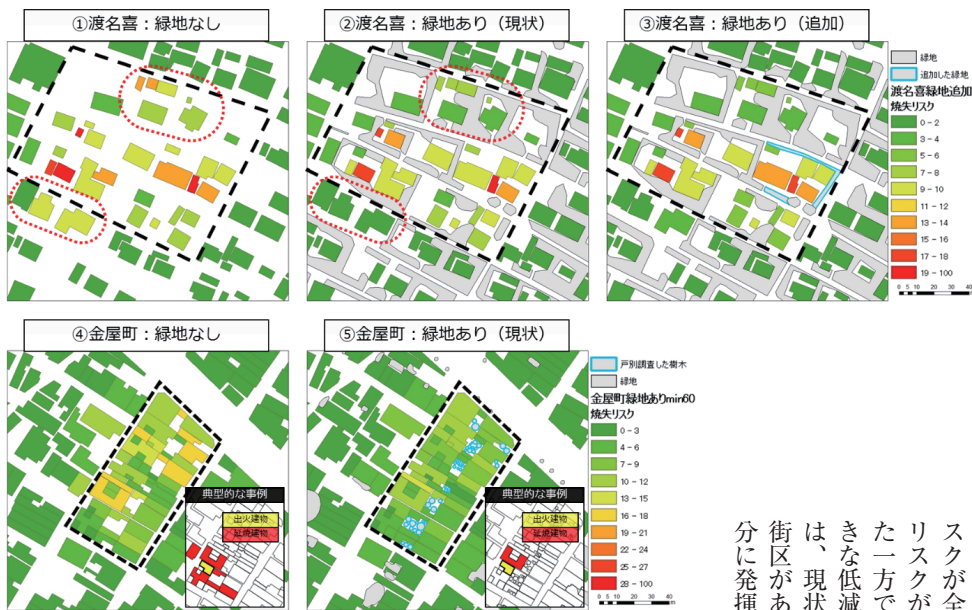


図6 火災発生から60分が経過した時点での焼失リスク

から、相対的に焼失リスクが高くかつ各緑地群の特徴を現していると考えられる街区に着目し、ミクロな視

### a) 計算条件の設定

マクロな視点の検証結果から、相対的に焼失リスクが高くかつ各緑地群の特徴を現していると考えられる街区に着目し、ミクロな視

### (3) 街区規模での

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

### b) 検証結果

延焼計算の結果から算出した焼失リスクを図5に示す。各地区ともに比較のため、現状の緑地が失われて空地になったと仮定した場合①③④だけではなく、現状の通りに緑地がある場合②④も想定した。

### c) 考察

2つの地区間を比較すると、金屋町の焼失リスクが全体的に高くなる結果となった。これは、隣棟間隔の狭さが焼失リスクの上昇に影響を及ぼしたことが原因だと推測される。

渡名喜島重伝建地区については、図5中

①緑地なしに比べ②緑地ありでは、焼失リスクが全体的に減少している。ただ、焼失リスクが0近くまで減少する街区も見られた一方で、②の破線部では焼失リスクの大きな低減は見られなかった。このエリアでは、現状で既に敷林が消失したと思われる街区があり、緑地による延焼抑止効果が十分に発揮されなかった可能性が考えられる。

金屋町重伝建地区については③緑地なしに比べ、焼失リスクが全体的に減少していることから、緑地による延焼抑止効果が働いていると推測される。また、中庭が比較的連担している④⑤の破線部においても、焼失リスクの減少は確認され、連担する中庭が延焼抑止効果を発揮した可能性が考えられる。

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

延焼シミュレーション(ミクロ)

点から延焼動態を観察する。本稿では図5中の破線に囲まれる2か所を対象街区として、地区ごとの特性を考慮した延焼シミュレーションを実施する。渡名喜島重伝建地区では、屋敷林の消失による影響を検証するため、民家を囲うように緑地を追加(再生)した街区を想定し、現状と比較する。

金屋町重伝建地区は、多様な樹種が植生する特性を踏まえ、個別の樹木としてモデル化し詳しく検証する。中庭の植栽の樹種については、戸別訪問による調査結果から設定した。計算条件を表5に整理する。

### b) 検証結果

対象街区内の各建物からランダムに火災を発生させた結果をすべて重ね合わせ、焼失リスクを算出した。代表的ケースとして出火後1時間(60分)が経過した時点のものを図6に記載する。

### c) 考察

渡名喜島重伝建地区については②緑地あり(現状)と③緑地あり(追加+再生)を比較すると、屋敷林を再生した場合でも焼失リスクには大きな違いは見られなかった。これは、隣接する既存の屋敷林による延焼抑止効果が、元々一定程度働いていたことが原因の一つであると考えられる。一方で①緑地なしと②緑地あり(現状)とを比較すると、特に赤点線内の焼失リスクに違いが見られた。以上から、特に現状以上に屋敷林が失われていった場合には、町並み全体の延焼危険性が増大する可能性があることが明らかになった。

金屋町重伝建地区についても、④緑地なしと⑤緑地あり(現状)で焼失リスクに全体的な違いが見られた。これは、中庭の植栽による延焼の抑止または遅延効果が発揮されたものと考えられる。また延焼の広がり方を観察すると、⑤では中庭を隔てて逆側には延焼が広がっていないことから、中庭の樹木群が一定程度熱を遮蔽する効果を発揮していることが予想される。以上から、中庭空間を守りつつ中庭の植栽を適切に管



理していくことで、町並み全体の災害安全性を維持できる可能性が明らかとなった。

#### (4) 結果と考察の整理

以上の2つのスケールで延焼シミュレーションを実施した結果、以下のことが明らかになった。

- ・マクロな視点の検証結果から、緑地なしの場合に比べて緑地ありの状態では、各地区内の焼失リスクが相対的に減少した。これには、緑地による延焼抑止効果が一定程度働いたものと考えられる。

- ・屋敷林の場合、一軒分程度の有無では焼失リスクには大きな変化はなかった。ただし屋敷林が大きく失われた場合には、地域全体の焼失リスクが増大する傾向があることが分かった。現状の屋敷林を維持しつつできるだけ復元させていくことが、火災安全性の観点からも必要と考えられる。

- ・中庭の植栽についても一定の延焼抑止効果が確認された。延焼抑止の観点からは中庭の緑も保存していくことが重要と考えられる。

## 5 伝統的緑地の保存に向けた課題の抽出

### (1) 聞き取り調査

#### a) 概要

以上の結果から、伝統的緑地を維持することで一定の延焼抑止効果が実証されたが、その効果を発揮するためには、将来に渡って緑地を適切に維持・保存していく上での課題を把握し、対策を検討する必要がある。そこで本稿では、まず伝統的緑地の保存を進める上での課題点を明らかにするべく、緑地の直接的な所有者である地域住民と、重伝建地区の保存計画を策定している行政の2者を対象に聞き取り調査を実施し、2つの異なる視点から伝統的緑地の保存に向けた課題を抽出した。調査概要を表6に示す。

### b) 結果

結果概要を表7に整理する。

#### (2) 課題の整理

聞き取り調査の結果からは、以下のことが明らかになった。

- ・両地区ともに伝統的緑地は個人の所有物であり、維持管理は個人に委ねられている。一方、これらの緑地は歴史的景観の要素でもあることから、金屋町では行政としても本質的には保存を促していきたいとの意見があった。

- ・金屋町については伝建地区の法制度上、外観に影響しない中庭の保存に対しては行政から住民への支援等が困難な事情がある。住民の高齢化や空家増加によって、植栽の管理者が不在になる可能性も指摘された。

- ・渡名喜島についても、現状は屋敷林の保全は個人に委ねられているため、金屋町と同様に、住民の高齢化によって適切な管理や保存維持が行えなくなる可能性が指摘された。

上記の通り、伝統的な緑地は個人の財産である一方で、町並みの景観構成要素としての特性も有している。そして、将来に渡って伝統的緑地を維持保存していくためには、所有者である住民への制度的な支援や、地域住民による管理支援が必要であることが明らかとなった。

そのためには、緑地の消失が地区全体の火災リスクの増大に影響するという事実を共有し、緑地保存に対する住民意識を醸成していくことも必要と言える。本稿によって示された伝統的緑地による防火効果を根拠として、防災的観点から緑地保存を推進する考え方は、行政支援と住民意識の醸成を同時に実施していく枠組みを検討する上で、一助になり得ると考えられる。

## 6 結論

### (1) 成果のまとめ

本稿の成果を以下に示す。

- ・樹木の遮熱力をモデル化し、既往の延焼シミュレーション上で緑地の影響を表現することができた。

- ・歴史的な景観構成要素としての緑地(伝統的緑地)による延焼抑止効果を、一定実証することができた。

- ・伝統的緑地の利害関係者に対して聞き取り調査を実施し、緑地を保存していく上での課題を明らかにした。

本稿で構築した伝統的緑地を有する地区の延焼リスク評価手法は、様々な伝統的緑地を有する他の地区でも汎用的に活用可能であり、この点も成果の一つと考えられる。

### (2) 今後の課題

本稿では、樹木の遮熱力を一塊の物体が宙に浮いた状態と見なして簡略的に表現したが、延焼シミュレーションプログラムの修正を行うことで、より厳密に遮熱力を表現できる可能性が考えられる。生木の耐火力についても、落葉樹などの季節変動の影響も含めた実験や調査によって樹木の熱物性値が明らかとなれば、より精緻な検証が可能になると思われる。地区において将来的に失われる可能性が高い緑地を調査し、延焼シミュレーションによる検証を行う事で、将来に向けた緑地保存の指針にも寄与できるものと考えられる。

対象地区の選定の過程で、伝統的緑地を有する地区として23地区が抽出されたが、これらすべての地区が有する伝統的緑地の性質や形状等を類型化し、延焼シミュレーションを実施することができれば、延焼抑止に有効な緑地の条件が明らかになる可能性が考えられる。

謝辞／高岡市教育委員会事務局文化財課 上村文則様、金屋町まちづくり協議会前会長 般若陽子様、渡名喜村教育委員会教育行政課 比嘉朗様、渡名喜村伝統的建造物群審議委員会 比嘉則雄様には、聞き取り調査でのご協力を賜りました。記して謝意を表します。

### ●参考文献

- 1) 大窪健之：「歴史に学ぶ減災の知恵」、学芸出版社、2012.6
- 2) M.Takamatsu and T.Okubo, 「Survey Analysis of Wooded Areas Around Temples and Former Samurai Residences in Urban Areas」, Journal of Disaster Research No.6(1), pp.109-118, 2011
- 4) 樋本圭佑、田中孝義：都市火災の物理的延焼性予測モデルの開発、日本建築学会環境系論文集第607号、pp.15-22、2006.9
- 5) 文化庁「伝統的建造物群保存地区」：重要伝統的建造物群保存地区一覧
- 6) 国土交通省：災害危険度の判定、<http://www.mlit.go.jp/crd/city/sigaiti/tobou/22gaisansanko.pdf>
- 7) 沖縄県渡名喜村教育委員会：渡名喜村渡名喜島歴史的景観保存計画書、2000.3
- 8) 高岡市：金屋町伝統的建造物群保存地区防災計画報告書、2017.3
- 9) 福岡市：森林を利用した都市防災計画、森林科学-森林で地震災害を防げるか、17巻、pp.2-7、1996.6
- 10) 岩崎哲也：樹木による防火効果について～これまでの検討成果から～、日本緑化工学会誌44(3)、pp.451-454、2019
- 11) 野島義昭：樹木の火災延焼防止効果、森林科学-森林で地震災害を防げるか、17巻、pp.8-12、1996.6
- 12) 岩河信文：都市における樹木の防火機能に関する研究、建築研究報告、No.105、1984.1
- 13) 自治省消防庁消防研究所：大震災火災時における地域防災活動拠点の安全性確保に関する研究報告書、消防研究所研究資料、第44号、1999
- 14) 斉藤庸平、岩河信文：樹木の防火機能に関する研究-樹木による延焼遮断効果算定法、造園雑誌、46巻 (5)、pp.158-163、1983
- 15) (財)都市緑化技術開発機構 公園緑地防災技術協働研究会編：防災公園技術ハンドブック、p.70、2000
- 16) 高井広行、矢野公一、松井武史、坊池道昭、上村雄二：神戸市における地震火災の発生と延焼動態に関する研究、日本建築学会計画系論文集第508号、pp.137-144、1998.6

# きょうと・人・まち・であいもん

この番組は・・・

企画制作  
まちづくり委員会・放送担当部会

18年間お送りしてきたFMラジオ番組から、動画配信に形を変えて配信していきます。  
ひきつづき、京都で活躍されている方をゲストにお迎えし、『その人を通して京都の文化、京都の暮らしを知り、京都のまちを考えていきたい。人と人の出会い、つながりを大切に、まちづくりを応援したい。』という願いを込めて作ってまいります。

vol.  
05

## 東海道でつながるまちづくり

ゲスト／(公社)滋賀県建築士会 大津地区委員会 木村 敏さん  
谷 祐治さん

前回vol.04では、「東海道でつながるまちづくり」に取り組まれることになった背景などを滋賀県建築士会の谷さんにお話いただきました。

今回は、具体的な活動内容を、同じく滋賀県建築士会の木村さんを交えて、お二人に振り返っていただきます。

最初の活動は、2012(平成24)年1月開催「近江八景でつながる琵琶湖の風景」急がばまわれ 瀬田の唐橋」というイベントでした。

近江八景のうち、「矢橋帰帆」と「瀬田夕照」の二つをポイントに、草津宿から大津宿までを瀬田の唐橋経由で東海道を歩くルートと、矢橋から琵琶湖を船で渡るル

ートに分かれて実際に東海道のまちなみを実感しようというものです。

普段は車で何気なく行き来しているまちは、歩いてみることで過去から現在にいたるまで色々と気がつく事柄があったそうです。要所要所には大津の歴史や文化やまちづくりの観点のクイズに答えていただく「関所」を設けて市民参加を促されました。

2013(平成25)年度は、大津市と草津市の連携が本格化。大津市古都指定10周年のタイミングであるこの年には、子どもたちを招き、琵琶湖の船上での事業を開催。また、次世代のまちづくりの担い手である子どもたちに景観の意義を伝え取り組むという意味合いもこめて「びわこ大津草津景観宣



「近江八景でつながる琵琶湖の風景 ～急がばまわれ 瀬田の唐橋～」  
編笠に道中合羽のいでたちの滋賀県建築士会の皆さん



<https://www.youtube.com/channel/UCHhblsnFIXCDIOjUErHJwHA>



言」がなされました。

2015（平成27）年度には、大津市と草津市の児童を対象とした「景観チャレンジ隊」と称した取り組みが始まり、現在も子どもたちの活動が続いています。

2017（平成29）年度からは、東海道の歴史や町の魅力を発信するための「東海道統一案内看板」の設置がはじまります。デザインやルールを策定する東海道統一案内看板専門部会を発足し、成安造形大学のサポートを受けて、市民参加がしやすいよう配慮したガイドラインが完成します。そして、モデルとなる看板を作成し、大津市と草津市にそれぞれ寄贈されました。

現在は、両市のみならず、湖南市（石部宿）、甲賀市（水口宿）などにも設置されています。滋賀県建築士会では、この看板の制作を通して、お互いのまちの魅力や歴史を認識・共有・評価し、その証として看板が増えていくことを望まれています。

2021（令和3）年度は東海道土山宿まちづくり協議会（甲賀市）と連携。滋賀県建築士会大津地区委員会と土山小学校、また膳所小学校（大津市）との共同作業で両市に設置される東海道統一案内看板が制作されました。

最後に、びわこ東海道景観基本計画（案）の中から、「景観とは、建物や看板、植物の緑など、日ごろ私たちが目にしているま

ちの様子や風景と、そこにある人々の暮らしにより育まれた歴史や文化が織りなすもの。」という一文が紹介されました。私たちは景観をルールとして、色彩・形状・素材などで捉えがちですが、そこに暮らす人々がどうやって豊かになるかを景観として捉え、文化や歴史を子どもたちに伝えていくという役割が建築士にはあるのではないかと、と締め括られました。

1時間に亘る収録の中で、ちよつと楽しい「ポナス映像」を最後に納めています。ぜひ最後までご覧ください。

（文責／松田容子）



東海道統一案内看板、モデル看板の除幕式



滋賀県建築士会寄贈  
「びわこ大津草津景観宣言」(表面)



街道に設置されている看板



裏面は、子どもたちが色付けしたカラフルな近江八景





## サンガスタジアム by KYOCERA

南丹支部 鈴木猛史

2018年1月19日から定点での撮影を開始し、大河ドラマ館オープンの2020年1月11日までカメラが壊れることもなく続けることができました。一昨年1月号の続きです。

2月9日のこけら落としの日は雪が降る寒中、多くの人が笑顔で集まっています。セレッソ大阪を相手にプレシーズンマッチが行われ、素晴らしい雰囲気の中、ゴール裏前列で私も観戦をしました。ピッチまでの近さ、見やすさなどの観戦環境は他のスタジアムでは感じられないものでした。翌々週のアウェイ山口戦に応援に行き、次はいよいよホーム開幕戦というタイミングで・・・残念ながら新型コロナウイルスで中断となってしまいました。

コロナ禍であっても、スタジアムの活用や周囲の整備は進んでいました。一昨年11月に無料の足湯設備がオープンし、隣接地では昨年の3月にイタリアンレストラン・

スパ&リラクゼーション併設のビジネスホテルが開業しました。マンションも建設中です。さらに6月に保育園が開園し、園児が芝生のピッチをはだして遊んだりしています。同じ頃、これまで亀岡になかったコーヒリーのチェーン店もオープンしています。周辺の道路も整備され、JRのアンダーパスを通過して亀岡ICへも短時間で走行できるようになりました。

スタジアムの4階部分も整備され、7月にピッチを一望できるコワーキングゾーンが誕生し、私も利用しております。11月にはVR/フィットネスゾーンがグランドオープンし、次々と進化をしています。

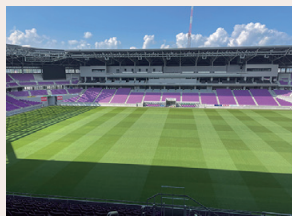
2022年度中の完成を目指し、東側隣接地にスケートボード場とフットサル場も整備され、まだまだ変化しそうで楽しみです。一昨年に「撮影した画像でスライドショーやパラパラマンガ風にまとめてみたい」と書きましたが、パラパラマンガ風の動画を作成してYouTubeで公開しています。「サンガスタジアム 着工 竣工」で検索すると見ていただけます。



起工式前日



竣工日



コワーキングゾーンから見るピッチ



サンガスタジアム「着工～完成」動画化 電岡の男性公開

定点撮影2年間まとめ

●フーレンで鉄骨部材が搬入されるスタジアム(2019年2月22日)  
●完成したスタジアム(今年1月11日)  
●いずも電岡市保健所より撮影、鈴木さん提供

2020・3・9の京都新聞朝刊の丹波版

### 【珈琲の表現】

いわゆる「珈琲の入門書」ではありません。誰かが決めたレシピをなぞるだけでは、あまりに味気ない。一息つきたい時、ぱっと明るい気分の時など、その時々で感情に合わせた一杯、そして、大切な人に振る舞う一杯を、自在に表現するための「淹れ方」に特化した本です。



著者：熊木祐介  
発行：雷鳥社  
定価：1,600円（税別）

大喜書店  
京都市下京区麩屋町五条上ル下鱗形町563番2  
TEL：075-353-7169  
OPEN：12:00～18:30 水曜日定休  
(土・日・祝日は11:00～)  
京阪・清水五条駅から徒歩5分

朝、事務所に出入りしてから珈琲を二杯飲むのが私の日課です。仕事を始めてからずっとこの習慣が抜け切らず、飲み過ぎて胃が痛くなるうとも、医者から控えたほうがいいと言われようとも、この二杯を飲まないとい日が始まりません。最初は飲めたら良いと思っています。珈琲もここ数年は進化をとげています。珈琲に関しては男性のほうが熱中する傾向にあるようで、今まで夫が主導で事務所ではいくつかのコーヒーメーカーを試行錯誤しながら使ってきました。生豆から焙煎してくれるコーヒーメーカーや、クラシックなハンドドリッパーに戻ったり、ここ数年は、無印のコーヒーメーカーがなかなかの優れたものだ判明して、事務所きたお客様には高評価をいただいています。焙煎したても豆の入手先も落ち着き、やっと定番の方法が見つかったと思いきや、ここ最近何やらまた、珈琲の迷走の時期に突入したようで、ハンドドリッパー式でフィルタを色々変えてみたりと朝の実験が続いています。慌ただしい時間の中で、じっくり時間

をかけて淹れる珈琲は少し贅沢な気がしますが、書店でたまたま仕入れていた「珈琲の表現」という本を手にとってみると、冒頭にこんな言葉がありました。「珈琲は、生きていく上でかならずしも必要なものというわけではありません。しかし、人間らしく、豊かに生きるためにはとても大切な嗜好品だと思います。」人の感情に寄り添うように、手間暇をかけて丁寧に淹れる珈琲は、作業すること一杯の美味しい珈琲につながる。この本を読んでいて、珈琲は建築と似ているなど感じました。

(大喜書店 岡田良子)





## 令和3年度 専攻建築士制度 登録申請の受付開始

## 令和3年度 専攻建築士新規・更新申請について

## ●受付期間

1月4日(火)～2月28日(月)

## ●申請対象となる建築士

## 【新規】

1. 建築士会のCPDを実施し、過去1年間(2021年1月1日～12月31日)にCPD取得単位数が12単位以上であること
2. 建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上あること
3. 当該領域の「責任ある立場での実務実績」が3件以上あること

## 【更新】

1. 過去5年間(2017年1月1日～2021年12月31日)にCPD取得単位数が60単位以上あること

## ●申請書の配布

(一社)京都府建築士会事務局で配布、又はホームページよりダウンロード

## ●受付場所

(一社)京都府建築士会事務局  
(専攻建築士審査評議会)

## ●審査・登録手数料

## 【新規】

	会 員	非会員
1 領域	17,600円	29,700円
2 領域	28,600円	48,400円
3 領域	39,600円	67,100円

## 【更新】

	会 員		非会員
	書類申請	Web申請	
1 領域	13,200円	9,900円	29,700円
2 領域	15,400円	9,900円	31,900円
3 領域	17,600円	9,900円	34,100円

※専攻建築士制度の詳細につきましては当会ホームページをご覧ください、(一社)京都府建築士会事務局までお問い合わせ下さい。

## 登録更新をされる皆様へ

平成28年に専攻建築士を登録された方は登録更新の時期になります。

平成26年度よりWebからの更新申請ができるようになりましたのでご活用ください。

## 編集後記

先日、日系人科学者の真鍋淑郎さんが環境研究でノーベル物理学賞を受賞され話題になりました。

この環境系の問題について我々建築業界では、昨年から施工された改正省エネ法が住宅まで適用されることで対応に苦慮されている方も多いと思います。私のような勤め人はまだまだ他人事といった思いでしたが、私の仕事の鉄骨業界でもカーボンニュートラルの話が出てきて、いよいよ差し迫った問題になってきました。

鉄骨は文字通り鉄を使っているのですが、鉄を作るときに多くの石炭を利用します。石炭を使わない製鉄技術などの研究はされていますがなかなか難しいようです。そのため最近では0カーボンからカーボンニュートラルといわれるようになりました。鉄のようにCO<sub>2</sub>を出さなければ成り立たない製品をつくる場合、植林などのCO<sub>2</sub>を吸収する活動を併せて行い、結果的に±0にするという考えです。

建築業界ではこれまで低層は木造、中高層は鉄とコンクリートという大きな住み分けができていますが、今後は少しでも鉄の使用量を減らすべく中高層への木材利用が業界を挙げて加速すると思われます。20年後はSRC造ならぬSW造が主流になる世の中になっているかもしれません。

時代に置いて行かれないようについていかねばと思う今日この頃です。

(沼田俊之)

建築は後堂、前堂及び中門より成る。後堂は桁行七間、梁間四間、一重、入母屋造、檜皮葺、北面西側端二間庇、すがる破風造、東面向拝一間。前堂は桁行四間、梁間五間、一重、北面入母屋造、檜皮葺。妻戸や部戸が使われ、廻廊を巡らすなど、住居の様式が残されている。北に向く前堂には国宝「弘法大師坐像」を、南に向く後堂には空海の

念持仏で絶対秘仏とされる国宝「不動明王坐像」が安置される。住坊だった創建当初の建物は、1379(康暦元)年の火災で焼失し、1380(康暦2)年に「後堂」と呼ばれる部分が再建され、1390(明德元)年には北側の「前堂」と西側の「中門」が増築される。航空写真で屋根形状を確認すると、建設の経緯が見て取れる。スケッチは西側からみる後堂を中心に描いている。ゆるやかな檜皮葺の屋根形状がたいへん美しい。個人的には毎年1月3日に行われる修正会に参列し、「おふなごう」を拝受する縁を頂いているお堂でもある。近年修復工事が終了し、その面目を躍如している。

かつて弘法大師空海が居住していた現在の御影堂付近は「西院」と呼ばれ、運慶の四男「康勝」による国宝「弘法大師坐像」を安置するため、御影堂や大師堂と呼ばれる。東寺では「御影堂」とされることが多いが、国宝の指定は「大師堂」となっている。

戸田建設(株)大阪支店建築設計室 林 伸昭



## 教王護国寺 大師堂

表紙のこぼれ

# 総合資格学院は 京都府も全国も合格実績

1級建築士試験

No.1

令和2年度  
1級建築士  
学科+設計製図  
試験

76.3%

京都府  
ストレート  
合格者占有率

京都府ストレート合格者38名中 / 当学院当年度受講生29名

(令和2年12月25日現在)

●令和2年度 1級建築士設計製図試験 全国合格者3,796名中 / 当学院当年度受講生2,041名 全国合格者占有率53.8%

※当学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。 ※全国/都道府県合格者数・都道府県ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※学科+設計製図ストレート合格者は、令和2年度の1級建築士学科試験に合格し、令和2年度の1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。

令和2年度  
1級建築士  
設計製図  
試験

62.9%

京都府  
合格者占有率

京都府合格者70名中 / 当学院当年度受講生44名

(令和2年12月25日現在)

令和3年度  
1級建築士  
学科  
試験

50.0%

京都府  
合格者占有率

京都府合格者108名中 / 当学院当年度受講生54名

(令和3年9月7日現在)

No.1  
の理由はコレだ!

優秀な講師陣による

対面講義



受講生一人ひとりに合わせた個別指導

社会人向け資格指導校では、映像で講義を行う学校も多いなか、  
当学院は受講生の理解度を最優先するため、対面講義に  
こだわっています!

## 令和4年度1・2級建築士学科対策コース 受講生募集中!!

体験入学随時受付中!!

お問合わせは下記最寄校までお気軽にお問合せください!



総合資格学院

全国  
100  
拠点

京都校

京都市下京区四条通西洞院東入郭巨山町18番地  
ヒラカビル 6F  
TEL.075-253-0481

福知山校

福知山市厚東町208番地  
FM-Eビル 1F  
TEL.0773-25-0511

スクールサイト [www.shikaku.co.jp](http://www.shikaku.co.jp)コーポレートサイト [www.sogoshikaku.co.jp](http://www.sogoshikaku.co.jp)

総合資格 検索

Twitter → @shikaku\_sogo LINE → [総合資格学院] Facebook → [総合資格 fb] で検索!

1級・2級 建築士

構造設計1級建築士

設備設計1級建築士

建築設備士

1級・2級 管工施工管理技士

1級・2級 建築施工管理技士

1級・2級 土木施工管理技士

1級 造園施工管理技士

宅地建物取引士

インテリア  
コーディネーター賃貸不動産  
経営管理士

- 京都府知事指定 民間確認検査機関 ●近畿地方整備局長登録 住宅性能評価機関
- 近畿地方整備局長登録 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

KYOTO ORGANIZATION OF CONFIRMATION &amp; INSPECTION



株式会社京都確認検査機構

Kind(親切) Open(明快) Certain(確実) Immediate(迅速)

## ■業務内容:

- 建築確認(事前審査有)・中間検査・完了検査
- 住宅性能評価《設計評価・建設評価》(業務区域:近畿2府4県)
- 住宅金融支援機構《フラット35(適合証明業務)》
- 住宅瑕疵担保保険取扱《まもりすまい・JIO・あんしん保険》
- 長期優良住宅建築計画(技術的審査)
- 低炭素建築物新築等計画(技術的審査)
- 建築物エネルギー消費性能確保計画(省エネ適合性判定)

## ■業務区域:京都府全域

## ■手数料:当社ホームページをご覧ください。窓口で配布の料金表をご覧ください。

## ■営業時間・休業日

◆営業時間 午前9:00~午後5:30

◆休業日 土曜日・日曜日・祝日・年末年始・お盆

(年末年始・お盆については事前にホームページなどでお知らせいたします)

●土曜日も現場検査のみ対応しておりますが、検査の希望につきましては検査部にご相談ください。

〒604-0931

京都市中京区二条通寺町東入榎木町82  
宮崎ビル4階

TEL: 075-256-8980

075-256-8981

075-256-8982

075-256-8984

FAX: 075-256-8985

075-256-8986

審査部

検査部

構造部

評価部

審査・構造部

検査・評価部

●ホームページ <http://koci.co.jp/>  
●Eメール [sinsa@koci.co.jp](mailto:sinsa@koci.co.jp)

~ご利用をお待ちしております~

契約駐車場(新榎木町沿コインパーキング・市営御池  
地下駐車場)については駐車券を配布しております。

